

環境・技術

環境・技術部門は、現代社会の環境、資源、技術をめぐる問題領域に関する経済学(政治経済学を含む)の諸理論とそれにもとづく具体的な現実分析や政策分析を基本的な対象とする部門として構成されている。こうした環境、資源、技術をめぐる問題領域は、いずれも現代の経済学分野においては新しいフロンティアとしての位置にあり、これからのさらなる学問的発展が期待されている分野となっている。この部門での諸講義は、学部共通の入門科目(「経済学入門」「経済思想」「経済統計」「経済史」など)の修得を前提にした上で、さらに現代社会の環境、資源、技術に関する問題領域に対して専門的関心を寄せる学生を対象に開講される。現在、学部講義科目としては、「環境経済学」「資源経済学」「技術経済学」、大学院講義科目としては、「環境経済論 」、 「資源経済論 」、 「技術経済論 」、 が、それぞれ設置されている。

「環境経済学」では、現代の環境問題と環境政策をめぐる動向や課題を中心的に取り上げながら、「環境と経済の相互関係」について考察する講義が行われる。とくにこの講義科目では、ビデオやスライドなども教材として使用され、具体的な環境問題の実態や環境政策の動向に対する受講者の関心を高め、それらの歴史と現状に対する的確な基本認識をもってもらうことが主なねらいとなっている。そして、大学院講義科目としての「環境経済論 」、 では、そうした現実の環境問題と環境政策をめぐる理論的・政策的な諸課題に対する経済学分野からの様々なアプローチの意義と方法について検討する講義が行われる。

「資源経済学」では、現代の環境問題と表裏の関係にある様々な自然資源の利用をめぐる諸問題が取り上げられる。とくに、個別資源の物質循環の構造やそれを決定する社会経済的要因の分析を行う「マテリアル・フローの政治経済学」について、具体的な事例を交えながら講義される。現実のデータを素材として分析を行うことを重視し、必要に応じて表計算ソフトなどを利用した演習課題を課す。そして、大学院講義科目としての「資源経済論 」、 では、この問題領域における理論的・政策的課題についてさらに専門的に掘り下げていくための講義が行われる。

「技術経済学」では、現代の経済活動に対し多大な影響を与えている技術の意義や技術革新(イノベーション)をめぐる経済分析についての講義が行われる。とくにこの講義科目では、技術革新のインパクト分析、技術・研究開発の戦略と過程、組織(企業、大学、政府等)と制度(特許制度などの知的財産制度)に関する経済的評価、技術にかかわる政策的課題などが検討される。また、この領域では先端的な位置にある情報通信産業や医薬品産業に関するケース・スタディも取り上げられる。そして、大学院講義科目としての「技術経済論 」、 では、こうした問題領域におけるより専門的な理論的・実証的研究の課題と方法について検討する講義が行われる。